

(様式1)

令和5年度 自己評価表

(西条農業高等学校)

学校番号( 10 )

<p>教育方針</p>	<p>ふるさとを愛し、社会の変化に柔軟に対応して、地域の豊かな未来を主体的に創造する担い手を育てる。汗を流し命を育む農業教育を通して、豊かな感性と困難を乗り越える強い心意気を養い、専門的な学びを深めて社会に貢献する職業人を育成する。</p>	<p>重点目標</p>	<p>Let's enjoy 西農 地域に愛され、地域を愛し、地域とともに歩む西農 —100年分の感謝と新たな飛躍—</p>
-------------	--	-------------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	学習習慣の確立	教科の宿題・課題をきちんとこなすなど、家庭学習を習慣化させる(平日1時間、考査中2時間以上)。	B	考査中の家庭学習時間は、全体平均で84分だったが、今年度から中間考査を教科ごとの単元テスト等としたため、考査に向けて集中的に勉強するのではなく、教科のペースで家庭学習時間を確保できている。	単元ごとにまとめの時間を設けることで理解できるようになったという生徒の声、考査に向けた授業配分をしなくてよくなったという教員の声から、来年度以降も中間考査は実施せず、家庭学習の習慣化を促したい。
	学習の質の向上	ICTの利用等で効果的な学習を実践するなど授業満足度の向上を目指す。また、各学期末の授業アンケートを基に授業改善に各教科で取り組む。	A	昨年、コロナ関連の出席停止者が続出中、加速的にICTを活用した授業実践に各教科取り組んできた。また、その実践を教職員間でシェアするべく、相互授業参観週間を設け、互いのICTを活用した授業実践に触れることで気付きもあった。	次年度も相互授業参観週間を設け、教職員同士でICT活用実践力を高めるようにしたい。また、様々な事情で別室への登校指導が必要な生徒が毎年出てくる。そのような生徒に対し、ICTと対面のハイブリッドで学びの遅れが無いよう、教室復帰につながるようサポートしていきたい。
	読書指導の充実	授業との連携を図り、一人当たり貸出冊数3冊以上を目指す。朝の読書を充実させ、静寂の中で全員が読書を行うよう指導する。	B	一人当たりの貸出冊数は12月末現在で2.8冊と目標である3冊に迫っている。朝の読書に関しては、今年度の実施は見送った。	来年度は、朝の読書を実施するなどして貸出冊数の増加に努めるとともに、蔵書の充実を図る。また、授業における図書室の利用も拡充していきたい。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	生活のリズムをしっかりと作り、出席率95%を目指す。A:95%以上、B:94~85%、C:84~75%、D:74~65%、E:65%未満 身だしなみ指導1回目での合格率90%以上を目指す。A:90%以上、B:89~75%、C:74~65%、D:64~50%、E:50%未満	B	「欠席」だけでなく「遅刻」「早退」を繰り返す生徒も多かった。学校へ通う目的意識が低い生徒が増えてきている。身だしなみ指導では前もって整えるのではなく、違反項目を指摘されてから直す生徒が増えてきている。	本校では出席等の働きかけを生徒課が行っているが、「欠席」「遅刻」「早退」の指導は成績に反映されるので「教務課」で対応した方がよいのではないかとと思う。「理由」によっては「教育相談課」の対応が望ましい場合も多い。身だしなみ指導の内容も「規則」として対応するのか「マナー」として理解させるのが曖昧になっていることも多い。
	規範意識の高揚	生徒・保護者と教職員が共通理解を図り、生徒の安全を確保し、学習環境を整える。また生徒会を主体として校則の見直しを行う。	B	飲酒・喫煙・外泊・無断アルバイト等を容認する規範意識の低い保護者が増えてきている。交通ルールやマナーが守れず、地域の方や他校生に迷惑をかけている生徒も多い。校則の見直し(特に制服)では生徒会が積極的に意見を聞かせてくれた。	なかなか保護者の方に説明する機会が少ないので、入学の説明会の時にしっかりと説明しようと思う。高校生活より自分の楽しさを追求したり、自分と意見の異なる者を認めない者が割合が多いように思う。反社会的な行動をとる者も増えてきているので、警察等の外部機関と連携を強化する必要性を感じている。
	学校行事・部活動の充実	部活動の活性化(加入率90%以上)を推進する。生徒会が中心となって学校行事の運営や改革を行う。	B	部活動の加入率が高い。グループマッチ等では生徒会が中心になって動いていた。	部活動の加入率が高いが、実際に活動してるとは言いえない生徒も多い。農業クラブ等の研究と部活動をうまく融合できるようにしたい。学校行事等で生徒会がよく動いてくれたので、「生徒の意見」ではなく「生徒会役員の意見」になっていないか検証が必要である。
教育相談	生徒との面談時間の確保	表情が気になる生徒がいたら声を掛け、少しでも不安を減らし、安心した学校生活を送れるよう手助けする。要配慮の生徒に対しては、校外の機関と連携を取ったり、ケース会を頻繁に行い、個別最適な支援を行う。	B	スクールライフアドバイザーによる新入生全員との面談、各学期1回実施の学校生活アンケートを基にした面談、支援を要する生徒との定期的な面談を通して悩みの実態把握を行い、教職員や関係機関との連携を深める相談活動を実施した。別室登校やクールダウンの場所として教育相談室の受け入れも今年度は可能となった。	昨年度からの課題であった「合理的配慮」について校内研修を行ったが、より適切かつ必要な支援が行えるよう今後も研修や相談体制を充実させたい。また生徒課・人権教育課・養護教諭との連携を強め、生徒の心の危機のサインを逃さない安心安全な学校環境づくりに努めていきたい。

進路指導	進学指導の充実	課外への出席率100%を目指し、学びに向かう学力を高めさせる。 オープンキャンパスへの参加率100%を目指し、最適な進学先を選択させる。 第一志望校への進学100%を実現する。 A:100%、B:99~90%、C:89~80%、D:79~70%、E:69%未満	C	課外出席率100%（評価A）：教科担当の熱心な指導により生徒の進路意識が向上した。 オープンキャンパス参加率（3年生83%（評価C）：第一希望の学校への参加は100%であったが、第二希望受験をした生徒が参加できないまま受験、進学した。 第一志望への進学75%（評価D）：2名の国公立希望が叶わず私立大学への進学となった。公務員受験不合格の生徒が次年度のリベンジをかけて進学に変更した。	・課外については、引き続き基礎学力向上につながる取り組みとして継続したい。 ・コロナの影響も小さくなっているため、積極的にオープンキャンパスへの参加を勧めたい。同時に面談を通して複数の可能性のある学校のオープンキャンパスへの参加を勧め、第二志望に関してもマッチングを図りたい。 ・特に国公立大学進学に関する教員間の共通理解と、具体的な指導方法の見直しを図り、合格につなげていきたい。
	就職指導の充実	応募前見学への参加率100%を目指し、職業観を確立させ、企業とのミスマッチをなくさせる。 就職内定率100%を実現する。 A:100%、B:99~95%、C:94~90%、D:89~85%、E:84%未満	B	応募前見学参加率100%（評価A）：各事業所の温かい対応のおかげで、就職に係るミスマッチ解消につながった。 就職内定率98%（評価B）：1名家事手伝いとなったが、公務員合格4名を含む58名の内定が決定した。	・応募前見学に加えて、校外での企業ガイダンスを充実させ、より一層の生徒キャリア充実に努めたい。 ・一次応募での採用見送りの原因の多くが長期欠席など、学校生活に起因する部分が多いと思われるので、1年次からの3年間継続した生活指導を重視した指導を各課で連携したい。公務員志望の生徒の合格に向けた教職員の意識統一を図り、組織としてバックアップできる環境を構築したい。
農業教育	<食農科学科> 地域との繋がり、専門教育・研究活動の充実	生徒の地域活動への参加を通して、自己の知識・技術の深化を進める。地域活動への参加率100%を目指し、コミュニケーション能力を高める。 A:100% B:80以上 C:70%以上 D:50%未満 積極的・意欲的にプロジェクト学習に取り組ませることで、人間力を養う。 各部門校内大会への参加率100%、外部コンテストへの応募5点以上を目指す。 A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:50%未満	A	今年度は、四年ぶりなる西条市産業祭の開催や各種地域イベントも開催され、100%の生徒が参加できた。生徒の活躍が活性化でき、コミュニケーション能力の向上にもつながった。また、プロジェクト学習の充実に伴い、全国規模の外部コンテストでも5つ以上の評価につながった。商品開発も実現でき、メディア発信もできた。各部門での取組が生徒の成長に効果的であった。	地域活動への参加とプロジェクト学習による日々の成果を、課題解決や地域連携の具体的なつながりになるよう、生徒一人ひとりの人間力の成長と捉え、各部門ごとで特色ある取組を行ってきたい。また、学科の取組が生徒募集や生徒の進路実現につながっているか検証できていない。数的評価の難しい部分ではあるが、検証方法を検討して、学科全体での効果的な取組となるよう意識したい。
	<環境工学科> 地域との繋がり、専門教育・資格取得の充実	地域人材を活用して国家資格や各種検定等の合格率80%を目指す。 A:80%以上、B:79~70%、C:69~60%、D:59~50%、E:49%未満 各種コンテスト等に積極的に取り組み、5点以上応募する。 A:5点以上、B:4点、C:3点、D:2点、E:1点	C	【資格取得】 造園技能士、測量士補、土木施工管理技術検定の合格を目指して取り組んだが合格者は出なかった。 【コンテスト等参加】 農くの種類発表や防災作文コンクールの他、地域のうちぬきをめぐるツアーを生徒が考えて企画し、地域の人との交流を深めるイベントを成功させた。	【資格取得】 2年次に受験した生徒たちは、次年度こそ…という思いで、資格取得に意欲を燃やし始めており、個別に指導する場面を設けるなどして、学習意欲のさらなる向上を目指したい。 【コンテスト等参加】 地域や生徒の興味関心につながるものの中から精選し、積極的に取り組むように働き掛けるとともに、マスコミなどの広報により、自分たちの活動に自信が持てる活動となるよう支援していきたい。
	<生活デザイン科> 地域との繋がり、専門教育・資格取得の充実	アクティブラーニングを推進し、学びに向かう人間性を育成する。 基礎・基本的技術を定着させ、家庭科技術検定合格率100%を目指す。 一人一台タブレット端末を活用した授業を積極的に実施する。学校情報化認定のチェックでレベル2以上を目指す(学科内で測定)。 動画や文書等、情報発信を1人1回以上実施する。	C	【検定】家庭科技術検定合格率は食物1級で84%、和服2級は67%であった。【情報発信】学校情報化認定のレベルアップに努めた。情報発信の手段を理解させることができた。	一人一台端末は有効に扱えているが、組織としての取り組めるよう研修等を積極的に行っていきたい。

	<農業クラブ活動> 農業クラブ活動の活性化	行事の案内や競技結果を公表し、各種諸行事への積極的参加を呼びかける。また「新しい生活様式」に適応した運営を行う。 県大会での入賞率50%以上、全国大会での入賞100%を目指す。 (県大会) A:50%以上、B:49~40%、C:39~35%、D:34~30%、E:29%未満 (全国大会) A:100%、B:99~80%、C:79~60%、D:59~50%、E:49%未満	B	行事案内を積極的に実施することができなかった。県大会等各種競技会においては優秀な成績を収め、県大会においては70%以上の入賞率である。全国大会に関しては、農業鑑定競技の入賞数がゼロであり、課題が残った。	農業クラブ役員に活動の場を提供する意味も含め、校内への農業クラブ活動の周知を生徒から行う仕組み作りを行う。また、今年度の課題であった農業鑑定競技会に関しては、来年度以降指導方法を学校全体としてどうしていくのかを考え、入賞者数の増加を図りたい。
総務	PTA活動の活性化と広報活動の充実 校内諸行事の円滑な運営	保護者が学校行事へ積極的に参加できるよう、行事内容を工夫し、出席率の向上を図るとともに広報活動を充実させる。 各部・各課との連携を強化し、各種諸行事の充実を図る。	B	西条市産業祭で久しぶりのPTAの参加であったが、準備から実施までみんなが協力しながら楽しくできた。運動会にも多くの保護者に来ていただいた。また、PTA理事へも多くの方が積極的に参加していただいた。	マチコミメールを活用をさらに充実させ、校内・校外の各種行事への積極的な呼びかけをしていく。また、学校の様子などを今以上にホームページやマチコミで積極的に情報発信していく。次年度は、西条市産業祭へのさらなる積極的に取り組む等、各種行事を充実させたい。
環境厚生	美化意識の高揚 地域への貢献	地域へのボランティア活動を年2回実施する。 地域に役立てる人材を育成する。	B	加茂川のオオキンケイギクの除去活動を5月~7月にかけて、継続して行った	年間4回、防災・危機管理に関する啓発活動を行う。 地域へのボランティア活動を年2回以上行う。
研修	校内外研修の充実とICT活用力の育成	基礎研修の充実を図り、教員のライフステージに応じた資質・能力の向上・定着を図る。 校内外における研修を充実させ、教員の資質向上を図るとともに、ICTを活用した双方向授業の方法等を研究する。	A	ICT活用においては、個人差があるものの、他校に比べて先進的な知り組みがなされている。 校内外の研修も充実していると考えている。	懸案事項となっている個人差を解消するため、今後も校内研修のみならず、校外での研修も活発に実施する。
人権教育	人権・同和教育の充実	人権・同和教育についての研修や情報発信の充実に努め、生徒の自己肯定感や人権意識の向上を図る。	A	毎月「人権を考える日」にかかわって、西条市の人権擁護課の資料などを提示し、情報発信を行い、人権問題啓発映画の鑑賞により人権意識の向上を図った。	人権委員会などで、積極的に人権・同和教育HR活動などに関わるようにしていく。人権問題啓発映画の鑑賞や講演などにより、生徒の人権意識や自己肯定感の向上や望ましい仲間づくりについて生徒自身が考える機会を設ける。
業務改善	勤務時間の適正化	業務の効率化に努めるとともに教職員全体の更なる行動改革を進め、適正な勤務時間に対して積極的に評価する。	B	今年度は、ノー残業デーをあえて設けなかったが、教職員の中でも早く帰ろうという意識が生まれ、多くの方は適正な勤務時間を維持できている。また、年休・休暇を取得しやすい環境だという声もいただいている。	一定数いる勤務時間の長い教職員には、やや仕事が集まっている傾向がある。できるだけ、仕事の割り振り・分担を行い、特定の人が過度に負担になることがないようにしていきたい。
	職場環境の整備	教職員との健康相談や面談を定期的実施し、円滑な人間関係の構築に努める。	B	面談回数はそれほど多くないが、普段の会話を大切に、昨年より円滑な人間関係を築くことができている。	子育て世代の人の私生活と仕事の両立への理解と支援を学校全体で行っていける体制づくりをしたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。